

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 5 年度実施報告（概要）

団体名： 羽生市教育委員会

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
(イ. 特別活動における指導)

2. 実践校について

実践校名	(はにゅうしりつひがしちゅうがっこう) 羽生市立東中学校	
全校児童・生徒数	実践研究の対象	
376人	(学年) 全校	(児童・生徒数) 人

3. 実践校における実践内容

(1) 概要

①学級会の恒常化をはじめとした“全教師による全校的な指導体制の確立”、②学校運営協議会委員と生徒会役員が参加する企画運営会議の創設による“全生徒が自治的に活動する機会の設定”、③学校行事の見直しを基盤とした“生徒が主体的に活動する場面の設定”を柱に、中学校現場における特別活動経営の在り方を探求していく。

(2) 1 年目(令和5年度)の実践内容

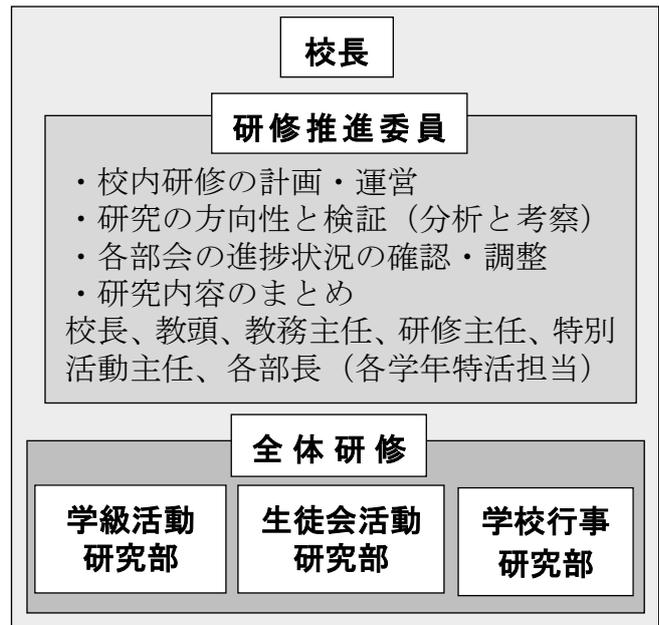
昨年度までの研究の積み重ねから恒常化しつつある学級活動(1)の“学級会”において、年間指導計画の精査・改善と、今年度15回実施した校内職員研修や研究授業をとおして、更なる話合いの内容の充実(質的向上)を図った。また、学級活動(2)(3)についても基礎から学び直し、学級活動(1)との授業展開の違いを踏まえつつ、年間を通じて適切に授業実践されるよう取り組んだ。

また、教育課程に「生徒集会」を月例で位置付け、定例的に生徒会役員がリードする生徒全員の活動の場を設定することで、生徒主体の時間を創出した。また、一つ一つの学校行事に学級活動、生徒会活動を関連させ、意図的に「生徒が主体的に活動する機会」を設定した。

4. 実践校における実施体制

研究推進のための組織を右のとおりとした。1年次は校長主導（トップダウン）で進め、2年次は研修推進委員会（ミドルアップダウン）が主体となって研究を推進する。

また、全員で行う校内研修の場そのものを全体研修会と称し、その下に学級活動、生徒会活動、学校行事と、特別活動の活動・行事の3つのカテゴリーに分けた研究部会を置いた。



5. 各研究テーマについて、1年目の実践を踏まえた成果等

【類型Ⅰ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践（イ. 特別活動における指導）

＜児童生徒が学校生活の充実と向上に主体的に参画することを促すため、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

“学級会”の恒常化、「生徒集会」の定例化が図られたことで、学級・学校のことを“自分事”として捉える生徒が増加した。生徒自身の実感としても、自分たちのことは自分たちで決めたいと捉えており、合意形成したものに価値を見いだしていることが分かった（生徒へのアンケートより）。社会参画意識を醸成するためには、学級全員が同じ土俵に立って話し合い、合意を積み重ねていく経験を積むことが必要不可欠であり、“学級会”の恒常化という視点をもって行った本研究では、その基盤を作ったという点において成果が見られた。

また、「生徒集会」をはじめとした生徒主体の活動の充実により、集団活動の機会が増え、学校への「所属感」や「帰属意識」の高まりにもつながっている。今後の課題として、どのような議題を扱うことで生徒がより主体的に話し合いに向かうことができるのか、どのように話し合いの見通しをもてるようにして質の向上を図るのか、といった内容について研究を深め、学級・学校の形成者としての資質・能力の育成につなげていきたい。

＜全ての教師が趣旨を理解し協力して関わることのできる、学校全体としての取組とするための校内体制構築に関して、どのような工夫が考えられるか。＞

特別活動の充実には、全教師による全校的な指導体制を確立することが欠かせない。そのため、学習指導要領の記述を基に、教職員の研修を積み重ねてきた。その中でも、“学級会”の授業の進め方を学ぶための模擬学級会の実施や、1単位時間の指導計画（学級活動指導案）の共通したひな形の作成を行ったことにより、全教職員が足並みを揃えて実践に取り組めるようになった。特に、経験の少ない教員においても、ある程度の水準の授業を展開することができるようになったことも成果として挙げられる。これまで、ある程度

のトップダウン型で進めてきた研究であるが、2年次は研修推進委員会が主体となったミドルアップダウン型として研究を推進していく。

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 5 年度実施報告（実践校における実践内容の詳細）

団体名： 羽生市教育委員会

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
（イ. 特別活動における指導）

2. 実践校名

羽生市立東中学校

3. 実践校における 1 年目（令和 5 年度）の実践内容

ここでは、特に成果を挙げた以下の 2 点について報告する。

（1）全学級での恒常的な学級活動の実施

本研究では、全学級で恒常的に“学級会”を行えるようにすることをスタートとしている。授業研究会では、学級活動（1）の実践に重きを置きつつ、（2）（3）の実践を織り交ぜ、正常な授業時数をそれぞれの内容でバランスよく配当し、実践することを念頭に置いて取組を進めた。

○年度当初保護者会での授業実践

- ・全学級で学級活動（1）「学級目標を決めよう」を実施。
- ・保護者に生徒が話し合っ合意形成する様子を見ていただき、学級経営への理解を求めた。

○授業研究会での全学級公開

- ・ 7 月…羽生市特別活動授業研究会において、全学級が学級活動（1）及び生徒会活動（生徒集会）を公開、各学年 1 学級が学級活動（1）の研究授業を行う。
- ・ 9 月…教育事務所訪問において、全学級が学級活動（1）（2）（3）及び生徒会活動（生徒集会）を公開、各学年 1 学級が学級活動（1）（2）（3）の研究授業を行う。
- ・ 1 1 月…研究発表会において、全学級が学級活動（1）（2）（3）及び生徒会活動（生徒集会）を公開する。

ここでは、1 1 月の研究発表会において行った学級活動の議題を紹介する。

学年学級	内容	議題・題材
1 年 1 組	学級活動（1）ア	2 学期お疲れ様集会をしよう
1 年 2 組	学級活動（3）ア	ブックサーフィンで自分の読書週間の幅を広げよう～なりたい自分に近付くために～
1 年 3 組	学級活動（2）エ	自分に合った歯の磨き方を身に付けよう
2 年 1 組	学級活動（3）ウ	自分のよさの発見～自分のよさを生かせる職業を

		考えよう
2年2組	学級活動(1)ア	2学期お疲れ様集会を計画しよう
2年3組	学級活動(2)エ	歯肉の健康を守ろう
2年4組	学級活動(1)ア	殻を破って上級生へスタートダッシュ！2学期の生活を振り返ろう！
3年1組	学級活動(3)ア	ダイヤモンドランキングで進路について考えよう
3年2組	学級活動(2)エ	そしゃくの大切さを知ろう
3年3組	学級活動(1)ア	受験期の生活を考えよう
3年4組	学級活動(1)ア	よりよい学校生活を送るための作戦を考えよう
特別支援学級	学級活動(3)ウ	どんな仕事があるかを知り、就きたい仕事を調べよう

特に学級活動(1)の実践では、生徒が主体的に話し合えるよう、提案理由の具体化に力を入れた。話し合う議題について、生徒全員が学級全体の問題であると捉え、学級生活の充実・向上を意識できる提案理由である必要がある。議題「よりよい学校生活を送るための作戦を考えよう」(3年4組)の提案理由は、以下のとおりである。



日常の学校生活やこれまで取り組んできたどの行事でも、全員が学級の一員として精一杯力を発揮し着実に成果を残すことができました。仲間と協力することの大切さを学び、団結力・絆もさらに深まったことを実感しました。卒業まであと4カ月半、これから進路選択という大切な時期を迎えます。受験期を乗り越え、感動の卒業式を迎えるためには、これまで築いてきた仲間との信頼関係を大切にし、お互い支え合って学校生活を送ることが大切だと考えました。今後の学校生活をより充実したものにするために、学級のスローガンを掲げ、そのスローガン(目標)達成のための具体的な取組を考え、実践していくことが必要であると考え、この議題を提案しました。

(2) 生徒集会の定例化

○「生徒集会」の“守・破・離”

生徒の自発的、自治的な活動を促すためには、まずは教師が企画・運営のサンプルを示し、初期段階ではシナリオを与えて教師が傍らに付きながら“見様見真似”で経験できるようにすることから始めた。2回、3回と回を重ねるごとに、進行役の生徒会役員やローテーションによって取組を発表する専門委員などの生徒



から「こうしたい」「ああしたい」という声が聞こえ始め、徐々に教師の手を離れ、自分たちで考え、工夫しながら企画・運営する姿が見られるようになった。

○「生徒会歌」の制定

アフター・コロナにおける新たな学校文化の創造を意識し、現在の生徒が生み出す新しい取組を模索しようと、「生徒会歌」を制定し、生徒会を象徴する合唱曲選びを教師側から生徒会役員に勧めたところ、これに呼応して生徒総会で議決したものである。あらかじめ、音楽家担当教師に依頼し、音楽の授業で全学年共通に数曲の合唱曲を提示し、その中から全校生徒の投票によって1曲を選んで「生徒会歌」とした。全校生徒の合唱への取組で学校を活性化する事例はよく見られるが、特に本校においては、“生徒が自ら選び、決定する”手順にこだわって制定した。9月以降の生徒集会で練習を開始し、校歌と併せて毎回、生徒による練習計画をもって継続的に取り組んだ。

学級活動の指導において、生徒の自主的な実践活動の積み重ねにより身に付いた資質・能力が、生徒会活動、学校行事においても発揮される。一方、生徒会活動や学校行事で育まれた自主的、実践的な態度や自分への自信が学級活動で発揮されるなど、往還の関係にあると仮定する。引き続き主権者教育の視点から特別活動の研究を進め、教育課程全体の活力となるよう努めていく。

